

地平線の^{オメガ}ωケンタウリ

春の星空が南中するのを眺めると、地平線の彼方には南十字星など、南天の天の川の星々が輝いているんだろうなあと、しみじみと思いを馳せてしまいます。そのような南天の星々の有名どころの中で、全天最大の球状星団である ω 星団は日本でも地平線上 10° くらいの高さに南中するので、観望できるチャンスがあります。

しかしながら、春の星空は水蒸気や黄砂で透明度の悪い日が多くて、カノープスのような恒星ならいざ知らず、ぼうと広がっている星団がどのくらい見えるのか、今までトライしたことはありませんでした。

そこで、5月中旬の大陸の高気圧が張り出したときを狙って撮影に挑戦しました。

南の方向が開けているところにセッティングして、星図と照らし合わせながら双眼鏡で観察しつつ、星が昇ってくるのを待っていると、やがて大きな星団が山影からゆるやかに上がってきました。(写真)

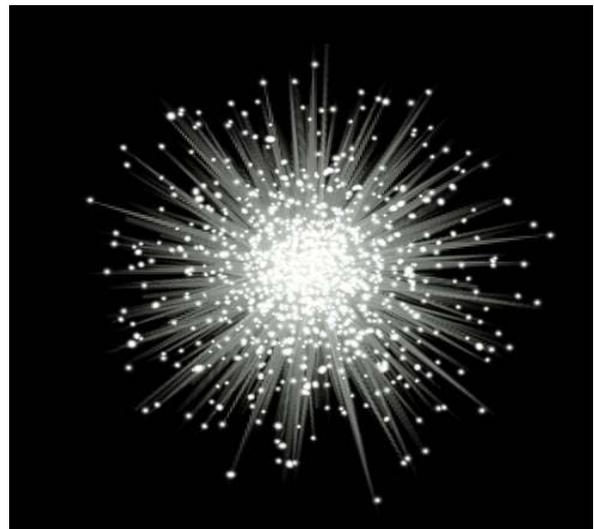


ω 星団 (Pentax100SDUF+FinepixS5Pro)

ひさびさのご対面に少しうれしかったです。

ところで、 ω 星団は、オーストラリア星見の時にT氏の望遠鏡で良く見せてもらいました。接眼鏡の視野いっぱい広がる星の大集団はもう圧巻で、完全に眼の(脳の)処理能力を超えています。で、その結果として、どういうふうに見えるかということなのですが、多分、それぞれの人によって違うのだと思いますが、私の感覚では下の模式図のように見えました。

特徴なのは、星団の中心部から、周辺の星々に向かって鋭い三角形のスパイクがたくさん伸びているように見えるのです。もちろん、そのようなスパイクは存在するはずもなく、単なる錯覚なのですが、これまで見たことのあるものに何とか当てはめようとしている結果なのではないでしょうか。



肉眼で見た ω 星団のイメージ

念のために補足しますと、上のイメージ図はあくまでイメージで、実際には何千何万の星が群がって、それぞれの星に向かって中心部から鋭いスパイクが伸びているという感じで見えます。ですので、実際の見え方は、こんなショボイものではありません。

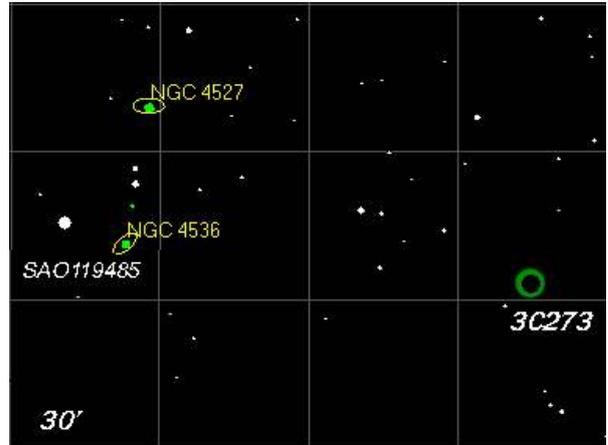
見てみたい星のこと クエーサー 3C273

2月号に最も近い恒星のプロキシマケンタウリを見たいという話題を書きましたが、その逆に遠い星も見てみたいという憧れもあります。

でも、遠い星は当然ながら暗いので、なんとか見えそうなる星（銀河）は、せいぜい4億光年といったところです。そのような中で、抜群に明るいのはクエーサーの3C273で、25億光年という遠方にありながら13等級の明るさです。でも、クエーサーは昔は準星と呼ばれていたくらいで見かけ上は恒星と区別がつかず、それと確認するのが容易ではありません。

そんなことで、あらかじめ付近の写真を撮ってガイド用の写真星図にしようと思っているの

ですが、これまた付近の星野が地味で星図と比較してもどこを撮っているのやらからない状態でした。のっけからつまずいて前途多難です。



メカが大好き CPUの遍歴

ゴールデンウィークに部屋の片づけをするついでとして部品箱の整理を行いました。古くてもう使わないであろうというような部品もたくさん残してあるのですが、その中にはパソコンなどのCPUもあります。たくさん出てきたので、100円ショップで買って来た額に入れてインテリアにしてみました。

プロセッサで遊び始めてから30余年経ちますので、手持ちの種類も様々で、左上のCOSMACは、1978年くらいに買ったものでポイジャーとかガリレオに乗っていったのと同タイプのCPU、右上はCeleron 3.2GHzで、2004年ごろのものです。この2つのCPUの性能差は多分10万倍以上あると思うけど、値段はそんなに変わらな

ったのではないかと思います。

額の右下が空いているのは、これからも不要のCPUを足していこうという考えです。CPUはどんどんと高性能化が進んでいくのでしょね。



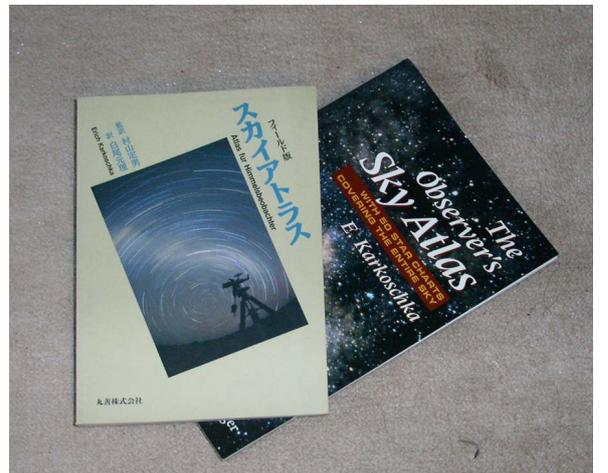
Books&CDs フィールド版スカイアトラス／村山定男・白尾元理訳

3C273の位置を探すために、良い星図を捜している中で、この本をめくることになりました。見開きの右側には星座ごとの肉眼星図と星雲星団を見つけるためのファインディングチャート、左側には星雲星団や主な恒星、二重星などの位置と見え方を示した星表がついています。いうなれば、野外へ観望に出かけるときに必要な情報をコンパクトにまとめて、これ一冊で間に合うようにした星空案内と申しましょうか。でも、やや詰め込みすぎの感があって、かえって使いにくい心地です。

で、写真にあるThe Observer's Sky Atlasは、その原語版で、それとは知らずに買ってしまって、到着したとき頁を開いて同じ体裁にあって驚いた始末でした。買って損した…

編集雑記

5月は、大イベントはありませんでしたが、いつにも増していろいろな天体を見ることができました。(ω星団とか金星と月の接近とか、ハッブル、 μ °-シャトルなど…) こういう星見も楽しいです。



Kz_Wada/和田一人